

和紙を用いたスツールの提案

A Proposal For A Stool That Utilises Washi

大橋 芽衣



日本の古くからの技術を用いた椅子

和紙は粘りがありしなやかであることから、書くのみならず「用具」として用いられてきた。このスツールは化学接着剤や合成染料を一切用いず、和紙と手作りの糊と柿渋、ほぞ組で組まれた木材から成っている。

Utilising Traditional Japanese Techniques In A Chair

Washi is often used not just as a drawing material, but also as a 'tool' because of its adhesive properties and flexibility. The stool that I have produced takes advantages of these properties by utilising handmade glue, persimmon tannin and wood assembled with mortise and tenon, without any chemical glue or synthetic dye.

1

和紙は繊維が糊で繋がれることで成る。スターチから糊を作り、和紙を貼り重ね、叩いて繊維を絡ませる。

2

柿渋は和紙に丈夫さと撥水性を持たせる。ほぞ組は釘やネジを一切用いず木材を組むことができる。

3

側面は全て和紙を貼り重ね、座面は柿渋の鉄媒染で色を濃くしている。